

出張報告書

平成 29 年 2 月 22 日

議長 岸田 厚 様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 岡林 憲二

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 持続可能な競輪事業の取組についての調査研究
- 2 出張先 栃木県宇都宮競輪場
神奈川県川崎競輪場
- 3 出張期間 平成 29 年 2 月 8 日～平成 29 年 2 月 9 日
- 4 出張者氏名 岡林憲二・池内矢一・井上源次・
鳥居宏次・鳥野隆生・反甫旭
- 5 てん末報告 別紙参照

出張報告書

平成29年2月17日

議長 岸田 厚 様

会派名 自民クラブ

代表者氏名 岡林 憲二

下記のとおり報告します

1. 目 的 持続可能な競輪事業の取組について
2. 出 張 先 栃木県宇都宮市東戸祭1-2-7
「持続可能な競輪事業の取組」について

川崎市川崎区富士見2-1-6
「川崎競輪場整備基本計画について」
3. 出張期間 平成29年2月8日（水）～9日（木）
4. 出張者氏名 反甫 旭 鳥野 隆生 池内 矢一
岡林 憲二 井上 源次 鳥居 宏次
5. 顛末報告 視察日程 別紙とおり

日程1日目 2月8日 栃木県宇都宮市

（人口 519、731人 市域 416,85k㎡）

午後13時～15時

宇都宮市経済部公営事業所 所長 入江正夫様、副所長 夏葉恭弘様から説明を受ける。

視察目的

《持続可能な競輪事業について》

1. 現状と課題について

- ①入場者、車券発売等の状況について
- ②収益・基金・施設の状況について
- ③競輪事業が果たしている役割について

2. 今後の収支予測について

- ①収入・支出の見込みについて

3. 今後の経営改善について

- ①売り上げ向上策について
- ②経営の効率化について

4. 一般会計への繰り出し金と基金への積立金について

5. ジャパンカップロードレースへの取り組みについて

(1) 宇都宮市では、平成21年度にメインスタンドを改修した。

○エントランス広場、駐車場の整備を実施した

○シアターホール及びレストラン（一般開放型）の新設

○建設費 34,3億円

建 物 26,7億円

付帯施設 4,1億円

駐車場 0,9億円

解体工事 2,6億円

(2) 整備による効果

○施設の規模をコンパクトにした結果、従事員賃金・場内警備費・場内清掃費・光熱水費など年間1億円の節減効果があった。

○平成20年と平成21年度の来場者数を比較すると、観戦しやすい環境を整えたことで、年間4千5百人増加した。

(3) 今後の経営改善について

○夜間照明設備を設置し、ミッドナイト競輪の自場開催を実施

○定期的に特別競輪の誘致

○新規ファンを獲得するため、グループルームを設置

(4) ジャパンカップサイクルロードレース

○1990年にアジアで初めて宇都宮市で開催された世界選手権自

転車競技大会のメモリアルレースとして１９９２年に創設。今年
は節目の２５回目の開催となり、全国から自転車レースファンが
１２万人を超え、過去最高の来場者数を記録。

２０１６大会結果

○ジャパンカップクリテルウム

日 時 １０月２２日（土）

距 離 ２，２５ｋｍ×１７週 ３８，２５ｋｍ

○ジャパンカップサイクルロードレース

日 時 １０月２３日

距 離 １４４，２ｋｍ

日程２日目 ２月９日 川崎市

（人口 １、４９１、７０６人 市域 ４１６，８５ｋｍ^２）

午前１０時～１２時

川崎市 経済労働局公営事業部

総務課課長補佐・施設係長 池田 昌弘様

経済労働局公営事業部

業務課事業課長 木暮 慎二様から説明を受ける。

視察目的

川崎競輪場再整備基本計画について

１．競輪場再整備後の経営体質強化について

①売り上げ向上策について

②収入・支出の見込みについて

③一般会計への繰り出し金と基金への積立金について

２．競輪場再整備による施設の考え方について

①市民利用の推進に向けた施設づくりについて

②競輪事業の持続的な運営に向けた施設づくりについて

３．市民利用について

①市民向けの多様なイベントの開催について

②バンク内の芝生広場の開放について

（１）川崎競輪場再整備基本計画では、「持続可能な事業運営を目指し、コ

コンパクト化に向けた段階的な整備を行う」「多目的な市民利用として、イベント利用や市民開放」など再整備計画の基本構想を決定した。

メインコンセプトは、

- 公園との一体感を感じられる空間づくり
- 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり

再整備計画の全体予算は、

- 平成24年から27年間で51,2億円
 - メインスタンド改修 28億円
 - 投票機器更新 1,1億円その他
- 平成28年から平成35年まで36,2億円
 - 一期目、二期目、合計87億円になる

イメージアップに向けた様々な取組

- 選手会と地域の小・中学校と連携した取組。競輪選手の練習見学等
- 競輪場で働く様々な仕事の体験。競輪選手へのインタビュー
- 小学校への出張授業、自転車競技の魅力や夢の実現について話を聞く

(2) 今後の取組み

- 記念競輪（GⅢ）のナイター開催 新たなファンの獲得
- 開催業務等包括委託への移行
- 民間活力の導入による柔軟かつ効率的な事業運営

今回の視察で判ったことは、宇都宮競輪場、川崎競輪場共に来場者数に合わせたコンパクト化に取り組んでいることです。そしてその資金はこれまで積み上げた施設改善基金の活用と経営の向上に取り組んだ結果の収益金によって実施しています。また、将来競輪事業の売り上げが落ち込んでも一定の繰出し金を一般会計に出せるよう、計画性をもっている。また、市の広報などを使い競輪事業を市民に公開された事業として広報している。さらに防災機能の強化や市民が利用できる芝生公園の設置を実施している。